

平成30年度第2回白馬村図書館施設検討委員会 議事録

日 時	平成30年9月13日(木) 午前10時から午後0時5分まで		
場 所	白馬村役場庁議室		
	役職名等	氏 名	出欠
委員長	社会教育委員会委員長	富山 正明	出
副委員長	図書館協議会会長	小林 英雄	出
委員	太田一級建築士事務所	太田 史彦	欠
委員	前白馬村教育委員会教育委員長	塩島 弘之	出
委員	しろうま保育園保護者代表	石山麻衣子	出
委員	白馬幼稚園保護者代表	中澤小百合	出
委員	白馬北小学校 PTA 会長	武藤 慶太	欠
委員	白馬南小学校 PTA 会長	渡部 虎史	出
委員	白馬中学校 PTA 会長	太田 具英	欠
委員	白馬北小学校校長	木下 政道	出
委員	白馬南小学校校長	倉科 浩美	出
委員	白馬中学校校長	田中 守	出
委員	公募委員	小川由美子	出
委員	公募委員	長島 律子	出
委員	公募委員	高橋 英子	欠
事務局	生涯学習スポーツ課長	関口 久人	出
	生涯学習スポーツ係長	柏原 英司	欠
	生涯学習スポーツ課主幹	下川 貴彦	出
	図書館司書	糸氏 志信	出
委員以外 の出席者	(役場総務課) 渡邊宏太 (一般社団法人日本カルチャーデザイン研究所) 花井裕一郎、田中榮博、蓮井英史、石野真		
傍聴者	なし		
会議次第	1. 開会 2. あいさつ 3. 協議事項 (1) 図書館施設の建設について (2) 今後の日程について (3) その他 4. 閉会		

### 1. 開会

#### 2. あいさつ

(下川) 今週のユーテレに花井さんが映っていましたので、また、今日明日ぐらいにやると思いますのでよければご覧ください。本日は、総務課から渡邊、図書館から糸氏が参加しています。それでは、第2回白馬村図書館施設検討委員会を開催します。よろしく申し上げます。

それでは、生涯学習スポーツ課長から挨拶申し上げます。

(関口生涯学習スポーツ課長) おはようございます。8/30に第1回白馬村図書館等有識者会議が行われました。その辺の部分につきましても花井さんの方からいろんな話が出てくるのかなと思いますけれども、いずれにつきましても、こちらの検討委員会と有識者会議は、並行して議論を進めていくかたちとなりますけれども、こちらの方が送れてしまうと、むこうの方も遅れてしまうという部分があって大変な状況になってしまう。基本的考え方から建設の候補地まで当然慎重審議はもちろんでございますけれども、結果も出していかなくはないという状況にございますので、併せて申し上げます。宜しくお願い致します。

(下川) それでは、委員長あいさつお願い致します。

(委員長) お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

本日につきましては、事務局として報告書という形の一つの案を提出して頂きました。これをひとつのたたき台として、その中身を詰めていきたいと思っております。今までは、こんなだったらいいなというざっくりとした話ばかりをしていたのですが、今日からは、少し具体的に詰めた話をしたいと思っております。

### 3. 協議事項

(下川) それでは、3番の協議事項となります。

ここからは、委員長が進行をお願い致します。

(委員長) それでは、進行させていただきます。

まず、協議事項(1)図書館施設の建設についてこれからの進め方について

まず、基本構想というかたちで、今年業者が決まりまして、花井さんのカルチャーデザインという会社が基本構想を担っていく事になりました。花井さんが今日はいらしてますので、その基本構想を策定するに向けての今後のスケジュールと内容について説明頂きたい。

(花井) おはようございます。

基本構想の策定で委託をさせて頂きました、日本カルチャーデザイン研究所の花井です。宜しくお願い致します。メンバーも来ています。

## P, 1 業務のコンセプト

文化の交流というキーワードの中から場を演出する、ということコンセプトに、多様なみなさんが住んでいる、外からも移住する人がいらっしやるということで、交流というものをテーマにしながらかコンセプトを進めてまいりたいと思います。

頁下にある、白馬村図書館（交流センター）仮ですが、設置されたとしたら、どのようなネットワーク、交流をしていくのが理想的なのか、基本構想のなかでインタビューをしながらWS、有識者会議を行いながら、どういったネットワークを作るかというところを視野に入れて、構想を練っていきたくて考えています。

## P, 2 業務に関するメンバーを紹介します。

ここに居ます 花井、田中・・・10年以上の図書館運営のキャリアを持っています。

本日は欠席ですが坂田という者がおります・・・図書館建設・海外にも仕事の間を持ち世界的視野からもみていく。建築家として運営側のソフトとハードが一緒になったものが我々の研究所であります。その目線から白馬村のお手伝いをさせて頂きたいと思っております。

今回は、蓮井、石野・・・白馬村のメンバーとして今回の事業の手伝いをさせて頂きます。基本的には、東京にもサポートメンバーはおりますが、白馬ではこの5人でお手伝いさせて頂くことになります。簡単な分担表は、ページ下にあります。ご一読いただければ。

## P, 3 複合施設としてどういうふう検討していくか

昨年度、個人でWSを中学、高校、老人会、職員、住民と5、6回やりました。出てきた案がここに記載されている。もっと多くの案があったがりましたが、まとめました。どう複合化していくか、ただただ複合といっても、ただ単に隣接した施設となっていくてしまうことが、懸念されますので、中身を含めてどう複合化していくのかを考えていきたい。ちょっと意識しているのが、観光地からリゾート地へ観光だけでなくもう少しリゾートというゆったりと欧米の方もそうですが、白馬を楽しんでいただくような施設としても検討の中に入れたほうがいいのではないかとすることを考え理想としてということで入れさせて頂きました。

## P, 4～6まで カルチャーデザイン研究事務所が調べている先進事例

ここだけが全てではないが、私どもが持っているデータの一部をここに掲載しました。

## P, 7 作業スケジュール案

有識者会議が先日行われました。委員長にも参加いただきご意見いただきました。

昨晚20人ぐらいでWSを行った。有識者会議、WS、検討委員会というのをバラバラに行われるとしても、情報の共有し、一体型となったという考えで、今年度は進めていきたいなと思っております。検討委員会には、全員が来られるかはわからないが、必ず僕か誰かがオブザーバーとして参加します。何か直接的な質問があればそれにお答えしていきたくて思っています。

## P, 8 先日の有識者会議

糸賀先生が委員長 松沢さんが副委員長で議論しました。先程のシナジー的な効果をというところから、考えられそうなテーマを絞って、ぼくらのネットワークのメンバーから適任と思われる人を推薦した結果、認められたメンバーとなっている。男性ばかりだという意見もあったが、たまたまネットワークのメンバーでそうなたただけで、女性がどうこうということではなく、申し訳なく思っています。

P, 9 昨日のWSでも行われました。SDGsから考える図書館

SDGsから考える考え方をひとつのスイッチとしまして、SDGsから入っていきますと世界規模で大きな話になってしまうのですが、それを180度針を回転させるように白馬村にSDGsを向けた時に、どういう足元に、今の問題点、よいところ、これから進まなければいけないというようなところがこの17と裏にある169あるコンテンツを使って、昨日は2時間ぐらいのWSを行いました。まだ、昨日の今日で記載できてないところがあるが、また追記したいと思います。

P, 10 同様にWSの内容です。

P, 11 昨年度のWSの内容を簡単ですが、やったことを書かせていただきました。

P, 12 白馬外のWSでいろんな手法を用いてやっているということ。

P, 13-14 有識者メンバーの説明

P, 15 補助金

補助金の考え方 お財布をどうするか、という内容

最終的にはどこからかどうなってくるものなので、わたしどものデータから考え方をおしらせのようなもの

P, 16 なし

P, 17 マンガをどう扱うか

今までは、図書館界マンガを置く置かないの議論が多かったのですが、マンガを使って学習的なものやしようという考えがひろがっています。学習まんが100連発とか、マンガを取り入れている図書館も増えている。その中で、人生100年というところで、ぼくら世代から、もうマンガに頼ってマンガで生きてきている。もう一度マンガの素晴らしさ、白馬に置くのであれば山岳系から何か見出すとか。情報をマンガの中から出していったらいいのではないかと、という提案をさせていただきます。

P, 18 7つの役割の図書館

7つというふうにはぼくらは割り出しておりますが、進めている中で基本構想のまたは基本計画の中でもう少し絞られていくのか、もう少し増えていくのかは、検討の余地があるかと思います。

P, 19 IOT技術の紹介

24時間ロッカー、バス停や駅等に24時間貸し借りできる機材が白馬に置いてあってもスマートな図書館運営ができるかなと提案してみました。

以上が基本構想に向けた進め方というのを、WS、有識者会議などでご意見をいただきながら3月までには報告書として出していきたい。

(委員長) 花井さんの話の内容についての何かご質問ありますか？

(委員) P, 9 SDGsについて簡単にいうとどういうことなのでしょう？

(花井) 国連で採択されたもので、17のターゲットがありゴールを2030年までに、この項目から世界をつなげていこうという国の事業、世界の事業。目標値である。世界中がこれにむかって

つながっていくということである。持続可能な開発目標。17ある中に169のターゲットがあり、細かいつながりをもって世界中の人が平等になったり、貧困をなくしたり、教育を平等にしたりして世界中でつながろう、世界でむかっていこうというひとつのモノサシのようなもの。何か目標やむかうところとかがないと、かなり突拍子もないことになるので、昨日のWSもこれをもとに行いました。

(委員) WSの運営は花井さんのところで行なうのか? 人数・今後の予定は?

(花井) WSは、わたしどもで進行させていただいております。

登録22名 男8 女14 高校生6 平均年齢34 村内出身11 うち村外出身4 県外出身7

昨日第1回 次回10/19の予定です。

(委員) 事前に知らせてもらえないと傍聴もできないので、いつなのかなと思っていました。

(委員長) WSの感想として何かありませんか、花井さん。

(花井) 白馬村でもSDGsを使ったWSをそんなにやられてないという事で、ぼくらでもそんなに回数を行ったことがないのですが、思ったより期待していたより、かなり施設に関する意見に結びつく意見がでてきた。貧困のところで子どもたちが子どもカフェを作ってみたらどうなるだろうとか、そこから大人のカフェへ転換していったひとつのカフェだけでなく、目的をもったカフェを作るという事で、食育に注目した試みではないかという意見が出たり。よくある話ですが、高校生が映画を観に行くだけで電車代で1000円、映画代で1000円、食事代で1000円と、とてもお金がかかりおこずかいではまかなえない。そういう事を今回の施設の中で少しでもカバーできないだろうか。あと教育の方では、日本語がしゃべれない子がいる。海外からのお子さんですとか、そういうお子さんに対しても平等の教育ということで白馬村に何ができるか、どういうふうに展開していくかということもこの施設の中で組み立てられるホスピタル、運営ということで考えられるかもしれない。そういう事があがっていたので、1回目としては、かなり多くの意見がでて大変喜んでおります。

(委員長) なかなかおもしろそうですね。他に何か質問ありますか?

(委員) 役場にお聞きしたいのですが。観光地からリゾート地になっていくのも大事だが、村自体、村全体がこのコンセプトを持っているのかどうか、それを持つての提案なのか。僕自身は賛成だけど、方向性としてまず、交流センターぐらいにするのか、してほしいと僕は思うが。賛成なのですが、賛成なのですが、大丈夫かということ、行政としてもとこの村をもう少しリゾート地としての面も持つて行きたいと思っているのか、それとも交流センターとして大事にしていきたいのか、という事を作っていく事も村全体の共有化なのか、それともこれをもとに共有化していくのかとい

うことが、ちょっと順番がみえないなと思ったのでお聞きしたいのですが。

(関口課長) 有識者会議で議論をしていただきまして、では村としてその施設にどのぐらいのお金をつぎ込めるのか、ということも重要な部分になってくると思います。その施設をどういうかたちがいいのかは、有識者会議で議論をして、図書館を含めた複合施設としてのものは、有識者会議でやっていきますけれども、じゃあ規模的なものとか、有識者会議にもでるのですけれども最終的には村、行政の部分で予算ですとか調整があるかとは思いますが。ただ、交流センターという方向に向かうという部分についても、その意見を尊重しながら行政のほうで判断していく部分だと思えます。

(委員) まあ、いくらかとか、縮小があったり拡大があったり、方向性としてその方向で考えていくぞという、ただ漠然とではなく背景としては観光地からリゾート地だとか世界規模の今、目指してる方も大事にしながらということころはよろしいですね。

(関口課長) 基本的には、村長の考えも、白馬村自体の国際リゾートも視野に入れているので、その方向は間違いはないと思っています。

(委員) わかりました。ありがとうございました。

(委員長) 今回のこの図書館ということをつきかきみたいにして、並行してその方向に進むということでもよろしいですかね。

(委員) 方向を見させていただいて、すごい何かえらいことが書いてあって大変なことが考えられて、夢がたくさんで校長先生がおっしゃたように、観光地ではなくてリゾート地の方にむかっていて世界規模でいろんなことを考えていらっしゃって、すごいな、夢が詰まっていたいな、と思う反面、私は、ここで普通に生活しているというベースの事を考えると、地元にいる地元民の人達の日頃の生活だったり、図書館利用だったり、白馬村に元々ここで生活している人達が、若干置いてけぼりではないかな、と思うところが。生活している者としては、淋しいというか…。この図書館の話ばかりだけではなくて、どうしてもこの村は観光地だったりとかでリゾート地目指していきましょうだとか、私も観光に関わる自営業をやっているのですが、どんどん国際化とかそちらの方面に、いろんなことが、いろんな事業だったり、いろんなお金のかけかただったり、そういう方向にどんどんどんどん海外の人を取り込んでだとか、私どもは、日本語しかしゃべれないし日本の文字しか読めないし。リゾートもわかるが私たちにとってはこの行政自体が、普通に生活している人たちが、ちょっと置いてけぼりな感覚が少し私としてはあったりする。どんどん国際化の方に目がいきすぎてしまって。なので、こういういろんな大きな夢があってこれもいいと思うし、せっかく作るのであれば、単純に図書館作りましょうとか、人が集まる所にしましょうというだけではなくて、大きな視野で作るのはいいと思うのですが、それだけではなくて、この白馬村に住んでいる1万弱の人達を置いてけぼりにならないような施設ということを少し考えてもらえるといいのかなと、有識者メンバーとかもすごい方たちの集合なので、私みたいな小さな人間の意見ではなくて、すごい

大きな意見が色々でてくるのだとは思いますが、私たちみたいな子育てをして、日々の生活をどうかこうとかかと言っている人たちの意見が、置いてけぼりになってしまうのは、実際基本使うのは私たちだと思うのです。海外から来た人たちがどれだけその施設を利用するか、と言われたら限られた期間の1回で、もしかしたら一生に1回かもしれないし、でも私たちは、ここに居る子育て世代として出させてもらっているのですが、私たちは、これからもずっと基本死ぬまで利用する施設として、生涯施設として考えると、こういう毎日生活している人たちに根付くような施設というのも、それも忘れないでほしいなと。もちろん考えて頂いているとは思いますが、そういうところも、どうしてもこの話だけではなくて、白馬に生活していると国際的というところに力がたくさんいっているということがよくわかるので、それも大事なことだとは思いますが、それがあつての収入ということもあつて色々難しいところではあると思うのですが、日々の暮らしをしている私たちとしては、若干置いてけぼり感がないこともないので、その辺も少し、一生住んでいく人達にも根付くようなものを作っていただく、かつ、こういう世界的なレベルでいろんなことを考えてそこを取り入れるということも両方を上手に取り入れてもらえると、結局根付くといったらここに居る地元の人たちがどれだけ利用できるか、ということが大きいと思うので、そういうところにもう少し考えてもらえると、子育て世代にはうれしいなと思います。

(花井) ちょっとフォローというか、説明をとぼしてしまっただけなのですが、補足P、4~6の先進事例のところのほとんどの事例が住民との事例で、住民とのネットワークで、住民との合意形成で作られている、住民へのサービスを重点的に置いている図書館を紹介しているのです。その点からも、今おっしゃったようなことは、いちばんに考えなければいけないことだと思っていますので、その点でもこの事例を出させてもらっています。白馬の村民ありきの、そこに建っていくということだと思っていますので、また、説明文が短いんですけど住民と言いますか、町づくりと言いますか、利用者のサービスとか課題を解決していくとか、ほとんどが、住まわれている人とのコミュニケーションの図書館ですので、それを基本にとこちらでも考えています。

(委員) ありがとうございます。

(委員長) すごく大切なことで、本来の図書館の話、今まで観光ばかりにお金をつぎ込んでいた白馬村が、ようやく住民の為に金を使ってくれそうだ、というイメージを私は持っています。ですから、その方向を忘れないでいてほしいな。だんだん風呂敷が大きくなって、結局図書館が置いて行かれてとなつては、なんにもならないということで、この検討会議の方々はそこら辺を重視して意見を述べてほしいなと思います。

(委員長) 他にございますか？

ないようでしたら、この前、有識者会議が8/30に開かれましたので、その時どんな話が出たかということをお渡しさんからお願いします。

(総務課 渡邊) 総務課 渡邊です。有識者会議とWSを担当させていただきます。次回以降の検

討会議も時間が合う限り出席させて頂きたいと思っております。

8/30の初回の有識者会議なんですが、前日に参加できる委員の方は白馬の公共施設ですとか村の中の様子をご案内したりしまして、白馬に来るのが初めての方もいらっしゃいましたし、もちろん来たことがある方もいました。事前のインプットとして、そういう情報を提供させていただきました。

会議では、最初は自己紹介していただき、次に村から村の概要とかこれまでの検討経過の説明をさせていただきます、その後意見交換という形で。意見交換ででてきたのは、いくつか代表的なものを申し上げますと、まずは、今までの検討経過をみる限り、カフェがほしい、交流がというような話が多いので、むしろ図書館というよりも図書館らしくない気軽にフラッと入れる、図書館というと、本を読んだり勉強したりする施設、というイメージがある人が多いということで、気軽にフラッと寄れる。そこに本がたくさんあるみたいな視点で考えるのもいいのではないかという話で。あとは、マンガで敷居を下げるということは有効的に働くのではないかと。あとは、ランニングコストの面を考えても商業施設を取り入れて有益を生んでいくような事業で、中で儲けられればいいのではないかと。あとは、ハードを作ることも大事だけれども、その後みんながどう使うか、ソフトとか情報発信をどうやって行っていくか、村だったり司書も含めてですけど、住民ですとか昨日のWSの参加者でみんなでどう使えるか考えていくことが必要であるという事でした。こういう機会なのでそれぞれの小中学校との連携で、学校の図書室との連携なども考えていければ、というような話が主だったと思います。今後やっていく方針として複合施設として検討していくということになっていますので、村内の公共施設で古くなってきているものをリストアップしたものががあるので、それについて今、役場の中で図書館との親和性はどうとか、政策とか緊急度とか色々な切り口から検討したものを有識者会議としてあげるのと、あとは、WSの結果と今やっている内容をあげたり、もちろん検討委員会の報告書も資料として有識者会議に出して、最終的に有識者会議でまとめたものを村長が判断してやっていくということになるかなと思っています。簡単ですが、以上です。

(委員長) はい、結構いろんな意見がでてきました。

どちらかといいますと、さっき言われたように図書館というふうを考えるのか、糸賀さんもおっしゃっていたのですが今造られる図書館としては、昔ながらの静かで本だけがある図書館というものを新しく作るのではなくて、前から花井さんなんかも紹介して頂いてますけれども、もっと人が利用しやすい、人が集まれる場所として色々工夫したものが最近主流ですよ、というお話もありました。ですから、基本的な方向としては、そういうようなことで進むことになるかということです。あとは、すごく厳しいことを言われたのがランニングコストの問題、ちゃんと役場に覚悟があるのかという話がありましたけれども、それについても役場として予算であるとかそういった事も考えていくというようなことで、色んな意見がでました。また今後複合させるとしたら、どんな所と複合させるのかということも、次回ぐらいにはそんな話もできるかなと。

(総務 渡邊) 村からは、現在ある公共施設でタイアップして、年数が近いもの、古くなってきているものを資料としてリストを村から出して議論されてくると思います。

(委員長) ある程度のリストがあって、そこに対してどうですかという感じですかね。

(総務 渡邊) そうですね、今年度4回予定している中で、4回で基本構想を策定するという予定なので、次回もそれぐらいはやっていかないといけないと。

(委員長) それでは、今後の進め方につきましては、以上にしたいと思います。また、この資料につきましては、わからない点等ありましたらおのちほどでも。検討会議でのまとまった形での意見を述べたいので、報告書を作っていきたいと思いますので、それにむけて意見を集約していきたいと思います。漠然としては、何も話が進まないの、一応このような形で報告書を作るとして案を事務局の方で一回作って頂きました。この構成等々につきましてはや中身につきましてもご意見いただいても結構ですし、中身につきましては、ひとつずつ埋めたい部分もございますので、それはまた、後程にしたいと思います。この資料の内容につきまして、ざっくりと説明をお願いできますでしょうか。

(下川) それでは、説明させていただきます。

まず、表紙なのですが、題名としましては、新しい図書館につきましてのサービスと報告書ということで名前を載せてあります、その下にケルンの写真を載せてあります。パッと見て図書館でケルンの写真なのかとなると、ちょっとおかしくなってしまうのですが、ヒントとしまして、下に、みんなの道標ということで、ケルンと道標をあわせまして、そして中を読んでもみると、ケルンという言葉が出てくるということにしてあります。日付は、平成30年の10月ということで、来月までに報告書を完成する予定で10月と載せてあります。

めくっていただいて、裏には目次、1ページには、はじめに、というところで、今の図書館の現状を説明してありまして、その中から新図書館建設について村と教育委員会の計画で白馬村第5次総合計画、白馬村総合戦略、白馬村図書館基本計画というところで調査検討を行う、ということが記載されているのを載せてあります。それから、白馬村公共施設等総合管理計画というものがございまして、こちらのほうでは、村の公共施設を全部チェックして、今後の改修等について検討していくという計画なのですが、その中につきまして、新図書館建設につきましては、複合化を検討するという文言が載せてあります。それから、検討委員会の立ち上げ、検討委員会で議論してきた内容をまとめてございます。それからP. 2に移りまして、図書館の現状と課題と致しまして、(1) 図書館の現状で、施設、職員、サービス、利用状況を載せてございます。P. 3の方では、図書館の課題としまして、また施設と職員について記載しております。

3. のWSの開催につきましては、平成29年度の報告書に載せてあった文章をそのまま載せてあります。4. 新図書館建設の基本的な考え方 と致しまして、①誰でも利用しやすい図書館、幼児から高齢者まであらゆる人々が誰でも利用できるようにすること。②白馬村に居住する外国人や観光客にも利用しやすいように、外国語資料の充実を図ること。③ユニバーサルデザインに基づく館内整備とし、利用者が普段着で土足のまま気楽に出入りできるようにすること。④内部は、明るく、夏は涼しく冬は暖かく居心地の良い雰囲気であること。⑤単純で明快な平面とし、見通しがきいて、自分のいるところや行きたいところがわかりやすいこと。⑥W i f i を設置すること。⑦融雪設備

等、雪対策がしっかりしていること。⑧駐車場が広いこと。(2) 白馬らしさが感じられる図書館として、①景観がよく、館内から白馬三山が見渡せることができ、自然に囲まれた場所にあること。②木のぬくもりが感じられる建物であること。③白馬の文化や歴史を知ることができる資料やコーナーを設置し、外国人や観光客も利用しやすいように工夫すること。(3) 飲食について①可能な限り飲食できる範囲を増やし、それに対応できる備品や床構造を検討すること。②飲食の提供については、なるべく費用が掛からないよう工夫すること。(4) その他 ①職員にとって効率よく作業ができ、働きやすい快適な環境となっていること。②資料の増加や新しいサービスシステムの導入に対応できるように、固定壁、柱は極力少なくした構造とすること。③施設を維持する上で、資源の浪費を減らし、省エネルギー化を図ること。太陽光・バイオマスなどの持続可能な循環型エネルギーシステムの導入を検討すること。④人的充実を図るため、専門職員を増員し、職員の資質の向上に努めるとともに、職員をサポートするボランティア等の配置なども検討すること。とあげてございます。また5. では、図書館のコンセプトとしてケルンという言葉を使って、普段の暮らしの中で悩み事とかがある時に、図書館が解決するための道標となる、町中のケルンとしての存在となるように期待しますという文言を載せてあります。6. として図書館サービスについてですが、こちらの方は、今の狭い図書館で行なっているサービスから、今度新しくなれば色々なサービスが可能となってきますので、その部分についてP. 5に記載してございます。まず(1)の館内事業につきまして、資料の管理、資料の収集。また、白馬村に関するあらゆる資料等の収集と保存管理を行うこと、として白馬に関する資料を充実させるということを載せてあります。また、資料の貸出、レファレンスサービスも載せてございます。(2) 館内事業につきましては、団体貸出。(3) 読書教育事業について、今までの図書館については面積が狭くて難しかったのですが、定例事業としまして本のよみきかせを行う事、それから季節の事業として幼児から一般を対象にした様々な講座やイベントを開催することを載せてございます。(4) 広報事業(5) 学校との連携(6) その他で図書館の持つ資料の展開として、展示、講座、講演会を行うことと載せてあります。(6) 印刷してから気が付いたのですが、(3)の季節事業と重複しているかなとも思いますので、また検討頂きたいと思います。

続いて、P. 6 7. 必要な施設と規模 (1) 新図書館に必要とする施設 ということ、ゾーンとして利用者のためのゾーンと管理運営のためのゾーンと保存のためのゾーンと三つに分けてあります。それぞれで、スペースやコーナーを具体的に載せてあります。特徴としましては、導入エリアにカフェスペースを載せてあります。また、白馬村の特徴を出すために、白馬エリアというものを作りまして、地域資料の閲覧コーナーを載せてあります。また、外部エリアには、公園や憩いのスペースがあります。(2) 規模など 立地条件については、3つ記載しています。①自然に囲まれており、白馬三山が展望できる場所にある。②駅周辺や学校の近くなど利用しやすい場所にある。③遠方の人が訪れやすく、車などで立ち寄りやすい場所にある。としております。その他、財政的な負担やスケジュールを考慮して、村が現在保有している土地を友好的に活用できないか検討すること、と一言付け加えさせていただいております。

建設場所についてですが、これから検討していただくようになりますが、候補地1カ所ですが、ここに航空写真を入れたいと思います。別資料としまして、航空写真を5カ所載せてありますが、これは、検討の中でご説明していきたいと思います。

規模、収容能力、数値目標、職員数につきまして、何か基準となるものを探しまして、日本図書館協会の「公立図書館の任務と目標」から、人口により必要な数値を出す式がありまして、それに基づいて計算しますと、人口8900人で計算しました。延床面積が1,180㎡、蔵書冊数74,470冊、開架冊数54,284冊、職員数は、計算すると6.5ぐらいになったのですが、切り上げで7人名として載せてあります。

駐車場につきましては、イベントなども開催しますので、30台ということで載せてあります。また、駐輪場も設けることとします。

P. 8 8. 建設に向けて留意すべき点として 何かありましたら、ここに載せていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

9. その他で委員の名簿を載せてあります。

資料の説明につきましては、以上です。

(委員長) ありがとうございます。一応このような形で、ひとつの報告というものを作ると考えていきたいと思いますが、この中で、みなさんに今日から検討して頂きたい。

P. 2～3までは現状報告でいいとしまして、P. 3の下4. からみなさんのご意見を伺いながら、こういった事をもう少し入れたほうがいいのではないかとか、これは必要ないのではないかとか、これはもう少し表現を変えたほうがいいのではないだろうかとか、というような意見があればこの辺のところを完成させていきたいと思っています。

基本的にこのような構成的なことで意見はございますか？あまりなければ、とりあえず、この形で進めさせて頂きたいと思えます。

まず、早速ですが4. の基本的な考え方として、今までみなさんからいろんなご意見をいただいたり、WSを行ったりということをしりままとめた形で書いてありますし、若干それに付け加えたものもあります。この中につきまして、順番に検討していただければよろしいかなと思います。

まず、(1)の誰にでも利用しやすい図書館という意味でこのような8つの項目があげてあります。これにつきましては、何かご意見ございますか。

(委員) ①あらゆる人々が支障なく利用できるよというところなのですが、立地条件にもかかわるかもしれませんが、車で来る場合のことは色々書いてありますが、運転免許のない方、学童などが、来られるようなことで、そこへの循環バスとか公共交通機関もあわせて考えた方がいいのではないかと思います。建てました、利用できませんでは困るので、8. の建設に向けての留意点にも入るかどうかわからないのですが、これまでも述べてきましたが。

(委員長) 立地条件とも重なっていますし、どこに行くにしたってそうですね、どちらかといったら総合的な話になるので、その辺のところも含めて考えて頂きたいと思えます。

他にございますか？

(委員) ⑤のあたりの事かなと思います。図書館を使う人たちの目的は多岐に渡る。その中で、声とか静寂ということがあろうと思うのですが、ほんとに受験生や中高生あたりもそうですが、本を読

むよりも、むしろ学習として使っているケースも結構、図書館の場所を埋めると思う。ほんとに静寂を求める方や、逆に子連れで来て、子どもたちと一緒に声をだして図書館を楽しみたいという人もおられるし、老人の方たちは一人静かに読みたいとか、いろんな幅広い人たちの要求を満たすような、音の区分けは、意識していく必要があると思う。

(委員長) それは、大事なことで私も同感です。他にございますでしょうか？

(委員) 先程の交通の件とか、場所は、色々なことにかかわると思いますが、ここが、という場所が全くない状態の話なのかどうなのかそのへんの事を、聞ける範囲で聞きたい。だいたいこの辺とかが、あるのかないのかわからないまま聞いていますが。

(委員長) 以前からその話が出ているので、今回、資料としていちばん最後につけさせていただいていますが、それなりの場所という、候補としてあげておきましたが、これにつきましては、最後にまた、もう一回話をさせて頂きたいと思います。これにつきましては、たたき台がないとイメージが全然わからないのでこんな所だったらどうでしょうという所を出して、その場所等の検討もしていただきたいと思います。なかなか、前回の有識者会議でも、役場の方は、具体的なことは言ってくれないので、こちらから少し考えて提出した方がいいのではないかと思います、具体的な場所を出してみました。それをひとつの材料として考えていけたらいいかなと思います。

よろしいですかね、また何かありましたらお願いします。順番にいきたいと思います。

(2)の白馬らしさが感じられる図書館ということですが、その中につきましていかがでしょうか？

白馬らしさとはなんだろうということと、白馬を感じられるとは、やはり自然とか山とかかな、そこらへんのことを感じられる、さらに白馬のことが歴史も含めてよくわかる、地理、環境すべてを含めて、そのような図書館にしたいとしてここに載せてあります。

よろしいですか？思いついたら言ってください。

次の飲食についてですが、これにつきましては、なかなか難しい部分もある。カフェと書いてしまうのかどうなのかも、それとももう少し広い意味で考えるのか、ここでは、少しぼかして書いていますが、これにつきましては、また色々やっていきたいですが、どうでしょう？

(委員) この夏、すごく白馬を楽しませてもらって、改めて色々な感覚で白馬をみたのですが、今まで図書館をこれから作るなら、カフェとかが全体に必要だと思っていたのですが、ケルンという言葉から考えたり、山に登る方が、沢山訪れるところで、サービスの押し売りはいらないと思った。たった一杯のお水も、山頂に行けば美味しいしありがたいということをよく知っている。白馬に住んでいる方はよく知っているので、移住してきましたという方もたくさんいらっやって、都会のカフェみたいなものはよく知っている、その人たちに今迄通りのサービスをして、それは、知っているという感じにみんな思っている、それなら、そこにお金をかけるべきではないかもしれないと、ちょっと思うところもあって。なので、飲食については、あまり重点を置いてしまうと、これからの白馬というところでいらない部分かもしれないと、ちょっと感じたので。今は、ちょっと考

え方が変わっています。建てられる方の意志もあるし、村民の意志もあるから、そこはどうでもいいのですが、私の中でちょっと変わった部分があったので、今、なくていいものを一生懸命欲しいと思っているかもしれないと思ったのが正直なところなので。図書館として思ったところでは、喉が渴いたという感覚は、お水でもいいかもしれないとちょっと思ったところがあります。だから、カフェしたかったら、別のところをお願いしてやるのも、どうせ予算もないのだし、そういうところで予算をつけるよりは、ちゃんとした図書館を作る方に、しっかり目を向けて土台から目をそらさずに作ってほしいです。

(委員長) 貴重な意見だと思います。

ひとつの運営としてしまうには、なかなか経営上難しい部分がおそらくあって、なかなか成功しているところが多くないというのが実際かなと思います。花井さんが携わられた小布施についても、結局、今はなくなってしまっただけで…。

(花井) そうですね。あれは、設計の段階で面積が取れなかった。

(委員長) イメージは作るのだけれども、なかなかうまくいかない。実際始めても運営がうまくいかず、お金が垂れ流し状態になってしまう、そういう部分もあつたりします。印象としてはいいのですが、難しい。実際に運営した場合ずっと続けられるか、私も若干思うところはある。そういうスペースはほしいなどはイメージとして持っています。それを、どういう形にするのかなというところに、この飲食についてということが入ってくるかと思う。

(委員) その関係なのですが、カフェ的にするかどうかとか、なしにするとか、隣に作ってくれればいいやとかも思っていますが、ちょっと置いておいて。可能な限り飲食できる範囲というところがちょっと気になりました。可能な限りとは、相当広くどこでもいいよ、みたいにも読めるので、まったく飲食できないにするのもちょっとあれなので、飲食できる範囲を検討するとしか言えないかなと、可能な限りはどこまでもと、ぼくは思ってしまう。基本的に言うところとちょっとはずしてほしいなと思う。

(委員長) ここは、ちょっと議論するところなので、あえて入れてみたようなところもあるので。今までよりも、少し範囲を広げる考えを持つのか、それとも今までと同じような感じで考えるのかというところです。これは、どういう考えがいいか、みなさんのご意見を聞きたい。少し自由にさせるのか、きっちりさせるところは、きっちりさせた方がいいのか。

(委員) テラス席とかのようなものを設けて、やはり飲食は切り離して考えた方がいいのかもしれないと思っているのですが。長い目で見た時に、図書館を維持していくうえで、少し別の空間としてとか別の意味でと思った時に、あえてテラス席っぽい席で切り離したほうがいいのではないかと思うのですが。

(委員長) 他の方がいかがですか？

(委員) 花井さんに伺いたいのですが、携わってこられた図書館で、飲食スペースがあるわけですよね？結構運営的には厳しくなっている所が多いのですか？

(花井) 今は、カフェはだいたい独立採算で後から入っていただくと思うのですね。その場合、話長くなるかもしれませんが・・・という方が入るかということ、工事の最初に決めておいた方が工事もきちんとしたものができる。後々からあの人入りました、パン屋さんが入りました、では、パンはどこに置く？とかそういうことが始まって・・・この資料の福岡県のふくちのちのちのところがありますが、ここは、パン屋さんが入っていて、図書館中にパンのにおいがして珈琲のにおいがして、みなさんが、逆によいとされている。連日パン屋さんが人気になってパン屋の収益が上がっています。ここには載っていませんが、群馬県の太田市というところは、美術館と図書館との複合施設となっていて、そこは地元のカフェをしている若いオーナーさんに4店目の店舗にさせていただいて、そこはソフトクリームに力を入れていて、1個450円ぐらいするのですがソフトクリームが超売れていて、業績も予定していたよりもちょっと上がっていて、その分入館者数も増えていて、夜は6時過ぎにはアルコールも出すようにしている。少しずつ、海外の事例を含めながら勉強されているという数は増えてきている。逆に委員長がおっしゃるように、山口県のワイカムというところは、レストランが4回変わっている。経営方針だと思うのですが、どうやってカフェの方々が、図書館と寄り添いながら運営していく、別生産としてもやっていくかということも重要で、太田の事例は、僕たちは売り上げを全部見られるようになっていて、月の売り上げで、何が伸びているのか報告書までもらって、一緒に経営していきましようという、そういう段階になれば、経営が独立採算の上でも一緒にやっていくということになっていくのではないかな。

(委員) これは、交流センターを概念に置いているなかでのことなのかと思うのですが・・・ひとつ聞きたいのですが、ふくちに関しては、図書館という本が置いてあるスペースの中では、カフェやパンとかはどこまで入って行けるのですか？そこらへんを教えてください。この文章にはそこら辺が関係すると思うから。

(花井) ふくちの場合は、1階のカフェコーナー。テーブルが置いてあって、なんとなくそこら辺かなという雰囲気、2階には持って行けません。ただ、違うところで、事故も起こっていて、山梨県なんかは、フラットな感じでカフェを作ってしまったので、そこで、受験勉強をする子が持ち込みで受験勉強する子が増えてしまった。そこらへんは、どう運営するのかを建築の段階で考えていけないといけないし、ここは有料ですよときちんと表現するのか、なんとなくするのか、それは、蔦屋図書館がやっていることと同じで、蔦屋図書館は珈琲も飲めますから、持って入れる。飲むことは大丈夫、食べることはまたちょっと。

(委員) 実際白馬の人がどれだけカフェ行くか？と行ったら、それほど行かないのですね。そういう時間の流れが村の中にあまりなくて、みんな閑散期と繁忙期がはっきりしたなかで、閑散期の時

は、やることがいっぱい泥だらけみたいな動きで、カフェ行こうみたいなのは、あまり根付いてないと思うところが正直あるので、サラリーマンの男性が多い所なら身近にカフェって感じなんですけど、なかなかカフェの文化はそこまでないんじゃないか・・・どう思われます？

(委員長) 意外とノースフェイスのところは居ますよね、今までなかったから、作ると人が行っているという・・・。

(委員) 私は、仕事や打ち合わせで利用していることが結構あるので。今までは家に来ていただいたりとかしていましたが、結構カフェは、ちょっとした打ち合わせとか接待だとかで利用することがあり、ノースさんはありがたいかなと。

(委員) でも、ノースさんが流行っているかといったら、実際そうではなくて、運営として考えた時に、それは、理想な話かなと思うのですね。やっぱり、図書館の中でのカフェと思ったときに、図書館として考えた時にまだまだカフェ文化は根付いてないから、実際ほしいけど危険じゃないかと私は思うのですよ。実際ほしいのだけれど、お金がかかってくると話は別になってくるので。

(委員) ③飲食については、基本的にやはり、飲食はあってもいいかなと思っていて、特に飲については、この夏のように猛暑にとか熱中症とかもあるから水分補給ということで、長時間利用する、午前中から利用する方とかが、家からお弁当やパンを持ってきたら食べる空間がほしいとか、なんらかの食べる場所、飲む場所の確保は必要かと思います。ただし、先程から出ている運営上としてやっていけるかとか。例えば、先程計算してみたけど、年間の来館者数が14,000ぐらいで1日にすると4,50人そこそこで、実際どのくらいの方が利用してくれるのか、維持していく部分を考えるとそう大層な物を作っても難しいのではないかと思います。ですから、ここでは、飲食については、ある程度認めるということにしておいて、どれだけのものができるかということについては、複合施設がどんなものができるかわかりませんし、この場所によって近隣にお店があるかもしれない、そういった条件が見えてきてから考えたらどうか。私はさっきテラスとおっしゃった、ああいいうところで、簡単なものをやるのも賛成ですし、自動販売機を置くだけでもその周りで食べられたら、これは、運営費がかからないことですから、簡単なものから順次よりカフェ的なものを考えていくかということは、今後の課題として基本的なことだけ考えていけばいいのではないかと。

(委員長) そういう場がほしいと思っはいますが、どういう形にするかということが大事なことで。これは、具体的に結論を出すのはなかなか難しい。さっき言ったように、可能な限りという表現はきつすぎるので、飲食できる場をもうけるという程度の表現にしておくことにして、②には費用等々書いてありますが、これにつきましても工夫して、外部に委託するのか、それとも自由販売としておしゃれな形で使ってもらうのか、場所をおしゃれにしている飲食は持ち込みで自由にするとか、その辺は工夫次第なのかなと思っています。そこら辺も表現に変えていきたいと思っています。飲食については、賛否両論難しいところがあるのですが、そういう場を何か確保して、それをどういうふうにしていくかも複合施設とか、その他も含めて考えていければということで、表現がこ

の会として、こうしてくださいとはなかなか難しいと思います。で、よろしいですかね？

その他につきましては、いろんなことが書いてあります。

大事なところとしましては、人員の充実ですね。今、司書さんは2人？（2. 5人ぐらいです）

お手伝いが入るということですね。その程度でしかないので、サービスを充実させようとするとうしても人が必要ということで、ここは大事なところだと思います。ここに、ボランティア的な人のことが書いてありますが、住民がある程度、図書館に協力していくという体制を、何かの形で作っていく、運営の中でも考えていったほうが、より身近な図書館として考えていけるのかなと思って、こういう事も入れて頂いてあります。この辺についていかがでしょうか？

（委員）ここだとちょっと小さすぎるのかもしれませんが、運営はどこにするのか？公立公営でいくのか、その辺がどこにもふれていないので、それにふれるのも必要かと思うのですけど。

意見としては、公立であってほしいと。村民の側を向いた運営を進めてほしいと思う。

（委員長）その辺は、最近是指定管理が多いけど・・・白馬村のその他の施設はほとんど指定管理だけだ。

（総務 渡邊）グリーンスポーツと山小屋は振興公社、岳の湯は社協が指定管理者として入っている。ある意味公社であったり、公的なところなので、純粋な民間の指定管理は、今のところないかなと思います。

（委員長）この辺のところも、原則公営みたいなことをどこかに入れるとして考えて。

鳶屋みたいに民間が入るという考えも一方ではありますが、今ここではないのかなと思います。そうしてくれという意見があれば、それもひとつの意見として聞きますけれども。

（委員）この報告書のいちばんのものとからくずしてしまうかもしれない意見なのですが、図書館の業務というのでしょうか、この7人（職員数の目標）とあるのですが、さきほどの飲食の問題もあるのですが、この7人は飲食施設がもしできた場合もその7人が携わるのかどうかということが、どうもこれ混在しているような気がしてならないのです。純粋に資料提供とか今までの図書館の業務に限ってのものなのか、それとも複合施設の、例えば子育ての方などの託児とかが入ってくるとも7人でまかなえるのか、区別がしっかりしてないのではないかと思う。先程の飲食の提供についても、本来の図書館の業務ですとしない。花井さんのWSの中では、本校の生徒にも、いや図書館とは違うものなのだよと、もっといろんなものがあるといいんだよと、お話しして頂いて、それからすると、この報告書にもある程度いろんな要素も入れなくてはならないと、そういうものであると、まとまらないものになってしまうのではないか。この報告については、資料の提供に限るとか、その方が書きやすくなるのではないかと思うのですが、そこに、加えて施設として別のものが必要になってくるような気がします。

（委員）私もそれで、さっきから困っているのですが、言うとなあとって、言ってくれてよかつ

たのですけど。交流センターの複合施設のことまで言えというなら、ここにいっぱい入ってしまうし。交流センターの中でほんとに図書館業務のみなのか、この委員会はどっちなのかと思ったり、建設のハード面などを強く出している委員会だったのか、ソフト面まで言ってしまったほうがいいのか悩んでいるのですけど、今のところはハード面の意見を言っていました。

（委員長）基本的には、基本ベースは、図書館というものを考えてほしい。その図書館というものを従来型で考えるかどうかで、いろんな意見が出てきている。単体で考えてもある程度いろんな要素が入ってくるだろう。ということもあって、一般の方も色々な意見を言っている。だから、一般の人には、複合施設ありきでは話をしていなくて、図書館がどうあってほしいかということで話をしている、そうすると、今までは図書館というところはこうだったけど、もう少しこういうものがあつたほうがいいのではないかと、もう少しこういうものがあつたら足を運んでもいいよという意見を伺った。だんだん風呂敷が広がってきってしまうということは事実かもしれないけれども、その図書館業務ということだけに完全にとらわれているというよりも、図書館施設として本のある場所に、足を運んでもらう仕掛け的なものが、ハード面であつたりソフト面であつたりということがあつたと思うのですが、図書館というものがあつて複合施設があつきましたよと固く考えちゃうと昔の図書館に戻ってしまうから、いろんな形の話がでてくるのかなという気がしています。確かに、境目がわかりにくくなっていますが、今のご意見を伺う中では、複合施設が、何と複合となるのか全くわからない話でして、図書館単体であつた場合に、こういったことは外してほしくないし、こうあってほしいなどご意見を伺っていますし、ご意見をいただければと思います。

（田中）花井と一緒に来ています。田中と言います、よろしくお願いします。  
文科省でずっと働いていたので、大学図書館を転々と行っていました。千代田区立千代田図書館と熊本新都心熊本図書館の2カ所は民間でやっているところの館長をやってきたのですけど。今、みなさんのすごく充実した議論を後ろで聞かせていただいて、図書館のサービスの中で、開館時間については、みなさんどうのご意見なのかなと、ここの中には謳っていないが……。これまで通りでいいのでしょうか？それとも、もう少し長い時間の方がいいのか？例えば、8時までとか、9時までとかそういった時間がほしいとか、その辺の希望は全然あがらなかったのでしょうか？  
私は、こういう会が初めてなので、どういうことが上がってきたかとかかわからないのですが、ここにちょっと謳われてなさそうなので。

（委員長）いかがでしょうか？ここには、ちょっとそれは抜けている。どう思いですか？サービスの中で開館時間の問題とか、意外とこの時間については、話があつたようななかつたような気がします。開館時間とはすごく大切で、今何時まで？（9時から6時までです）あんまり今までの出てなかつたですよ。そういうお話もありますね。その辺はいかがでしょう？もうちょっと時間を、これは人員ともからむところですけど。図書館として開館時間とは、どんなものなのですかね。都会だと夜遅くまでやっておけば、サラリーマンの人達が使えるメリットがありますから、9時ごろまでやっているところもありますね。でも、白馬で9時までやっても人は来ないような気はします。何時ぐらいまでが適当なのかな、ということもありますね。私個人的には、7

時ぐらいまで開けてくれるとありがたいなと、すごく思いますが。仕事がどうしても6時ぐらいまではかかってしまう、6時閉館だとほとんど行けない。

(田中) ちなみに千代田図書館の場合は、夜10時まで。熊本の場合は、夜8時半まで。先程委員長がおっしゃっていたように、やはり働いている人が寄れる時間ぐらいまでは開ける、という考え方でいくのか、平日来られない人は土曜日曜使えばいいのではないですか、という考えかということところがポイントといえば結構ポイントになるのではないかと思うのです。ですから、その辺りをお聞きしたいのです。今は、働く方が様々になってきているのではないですか、村はどうかわかりませんが、夜中働いている人も居ますし、9時から5時までの人も、どの辺の時間帯がいちばん居るのかなと思ったのでお伺いしたい。

(委員長) なかなか難しいところがあるのですが、白馬村の人達の動きがどのようなのか…。

(委員) 多分、普段の平時の時間でさえ足を運ばない人が多いのに、まず、そこを来てもらうように考える事と、あとは、もちろん夜とか延長して開館してくださると、今まで来られなかった人も来られたりするから、この日はとかこの月はとか、こちらはまだ初めてだから手さぐりな感じだから、なんとなくコントロールしていくのもいいと思うのですよね。長くやったり、曜日でかえたり、臨機応変にしてあげることもサービスのひとつだから、固定しなくてもいいと思うのですよね。

(委員長) そういう所もありますね。何曜日と何曜日は何時までとか。金曜日とかは遅いのかな。

(委員) 何月はとか、白馬ってそういう動きがすごく多いから、シーズンにもよるし。あんまり白馬は何時までですとしないほうが、白馬らしいかと思うのですけれど。

(委員長) なかなか、その辺、どうでしょうか？一文入れておきます？時間とかについて。

(委員) 突発的でいいのではないですか。それは、図書館がコントロールできることなのではないかと思うのです。

(委員長) だから、それは、運営の中でいくらでもコントロールできる。館長さんが決まった後に館長さんと職員とのことで、開けておくことはいくらでも開けておくことはできるので、あえてこちらが謳わなくてもいいのかもしれない。

(委員) 平均的な時間を謳っておいて、その他の時間みたいな感じで。HPでお知らせしますとかそういう感じで。ボードをつけておくとか、その程度でもいいかと思うのですけどね。

(委員) それを、報告書に載せるか載せないかという問題で、白馬の村民の動きをよく鑑みるとか、考えると、フレキシブルな対応を図っていくとかいうような、そういうことですよ、載せると

いうことは。今言われたような意見を行政的にはどう書いていくのか。

(委員長) だから、利用しやすい時間帯を検討してそれから決めること、というぐらいな形で、開館時間にも触れておくと、利用しやすいような環境を作る。

(委員) あえていれるなら、柔軟とかフレキシブルとかの発想で時間を考えていけるように、それでいい、ということですよ。それを言うておけばいいということで。

(委員長) では、そのような形で、入れておくということでもよろしいでしょうか。ありがとうございます。はい時間については、そんなところで。白馬という所が、田舎という所は全体かもしれませんが、観光地ということもあって、住民の皆さんが土日休みということでもない。色々あってケースバイケースで、その辺のことも考えて開館時間というのは考えなければならないかなと思います。次回につきましては、その辺のところも含めた協議にしたいと思います。その延長で言うのですが、サービスの内容ですね、これは通り一遍のことが書いてあるのがほとんどかなと思いますけど、この中で付け加えておいた方がいいと思ったのは、館外事業のところ、団体貸出ししかないのですが、出張図書館みたいなものも、場所によってはなかなか足が運べない人、交通機関が充実しないとか、今は北小の前にありますけれど、南小の子たちに出張図書館を開くとか、そういう事業もいれたらどうかな、とちょっと考えていました。このサービスは比較的図書館でありそうなのが一通り書いてあるかと思えますけれども、ひとつ重点的にしてほしいと思っていることが、白馬村に関する資料は徹底的に集めてほしい。集めて保管して、それを活用してほしいなということがあります。収集作業として、古い写真であったり、白馬村が紹介された動画やビデオや写真など、その他白馬村が取り上げられたもの、歴史等、すべて集めるという事業として、図書館にそれらが所蔵されるという場所にしてほしいということが、ひとつ。この前ちょっと聞いたのは、役場の地下倉庫に昔の書類が残っていると聞いたが…。ああいうものは、役場でそのまま保管している？それとも、図書館の資料としても行政資料とか保管とかもされているのか。

(関口課長) 公文書図書館とかありますね、それと同じ形にするのかということだと思うのですが…。基本的には、公文書については、決まりがありまして、そこで管理はされています。一般的なものと図書館をどうやっていくか、要は、図書館で公文書を保管するというのもひとつのものなんだろうと思うのですが、公文書自体については、そのまま出せるものではないのです。

(委員長) 古いのがあるという話を聞いたことがあるのですが。永久保存版？

(関口課長) 永久保存版はありますね。はい。

(委員) 質問です。P. 5の課題解決型図書館とは、ハード的には何ですか？施設？

(花井) 課題解決とは、ソフトの方が主なので、それがハードに寄せるというなら、それは、レフ

ァレンスの部屋を設けるとか、レファレンスデスクを広くとるとか、そういうことになると思いますけど。基本的には課題解決図書館とはソフト面で、あとは人件費の問題で、司書の充実を図るとか、上級司書を置くとかですかね。

（委員）課題解決じゃなくても、課題解決っぽいのがいるかなと思ったのですが、すみません、いいです。

（花井）文言としては、入れておかなくてはいけないものだと思います。確実に課題解決だとしても、賑やかな交流施設だとしても、図書館の使命はレファレンスですから、それがないと報告書にならないですよ。

（委員長）レファレンスサービスという中身をもうちょっと充実させていかないと。図書館によっては、ビジネス支援の部分を作っている図書館もある。

（花井）その部分は、田中が詳しいです。

（田中）熊本では図書館の中のひとつの部分に、ビジネス支援専用のカウンターがあって、そこにちゃんとビジネス支援の先生方がつめてて、何かあったらそこで相談するというのをやっているのですが、起業家を育てるという大きな目標が全体の行政の意志というのが出てくれば、それを入れないといけないと思うのですが、その辺りがどうなっているかわからないので。やるべきですよ、そうではないですよとは、一言では言いづらいです。やはり、先程の調査する調べ型の方は、文言としていれなければいけないと思います。これからの図書館はそちらの方ですから。図書館で調べ物をするというのが主流になってきつつある時代だから、それは、入れておく必要があると思います。

（委員長）課題解決の中に、そういうビジネス的なものも起業的なものも、個人的な趣味的なこと色々あるということですね。それをどういう形で支援できるか。

（田中）レファレンスというものの、一部分にそういうものが入ってくるかもしれないということですね。

（委員）報告書に載せるか載せないかは、別になるかもしれませんが、折角花井さんが来てらっしゃるので、花井さんから見た時に、白馬村のことを考えて複合施設の方がいいのか、複合施設ならどんなものがいいとか、イメージとか考えありますか？

（花井）それは、先程僕らが説明させていただいた、進め方というところに集約されているかなと、白馬村にはかれこれ2、3年、調査もしていますし、インタビューもさせて頂いている中で、複合というのは、はずせないだろうと。白馬には、他にはない観光、リゾート、外国のお客様が滞在

するという事になっている。そこで、交流するという事は、突っ込んだ言い方かもしれませんが、子どもたちの教育の中に、海外に行かなくても外国文化に触れあえるかもしれないということが、図書館や複合施設ができるならば、そういう方向からも視野に入れて考えるということもあるのではないかなと、これは、僕個人的な意見。あまり、個人的な意見を言うと今は受託しているので、個人的には、あまり今まで日本の中では見られなかった新しい機能を持った世界に向けた、世界と住民が交流できる施設に完成できるのではないかなと期待しています。

(委員) ここで、収益を生む形とかは？

(花井) 可能だと思います。それは、先程も出ていましたが、指定管理にするのかとか、または、PPPとかPFIとか新しい建設とか運営方法が今は世の中にありますので、本来そこにPFI官民連携とかが議論の中に出てくるのであれば、この報告書にも運営の仕方という項目で、公的なのか、指定管理なのか、もしくはPFIなどの官民連携も今後検討するという文言を入れておくのも、ひとつの手だと思う。

(委員) ちょっと案が多すぎて、まとまりが僕の中で理解できない。方向性を示してもらえると意見もしやすいんですけど。あとは、役場の方、お金出すのは村になるので、村の考え方や方向性というのをちょっと聞きたいなと思います。

(委員長) これにつきましては、僕も思う所があって、どこにつけて複合と言い出しているのかもちょっとわからない部分もあって、内容によってイメージが違ってくる。例えば、平たいところと言えば、子育て支援ルームなどの子育て世代の支援の場所をくっつけるとかであれば、意外と図書館として活かせる。ある一方で、突然、ホール作るとか違うもの作るとか道の駅作るとかになると、今度は全く親和性のないものになってくるので、全然イメージが変わってきてしまう。建物の作り方とか図書館のありかたとかも変わってきてしまうかなというのもあって…。子育てのことだけであれば、それをどう取り込んで、図書館の資料とかうまくかみあわせて、子どもたちも取り込んで本に親んでもらう場所を作るということで、話ができる。一方全然違うものとくっつくのであれば、図書館としては独立していないと、それとは一緒に考えるのは難しい。それが全然示されないで、今の段階では、話がしづらいし、イメージもわきにくい。

(委員) どこで、その辺が決まってくるのか？当然この会は図書館施設検討委員会なので、図書館をはずして考えないとは思いますが、僕が思うのは、立派な図書館を作ってしまったら、維持管理費が今後どうなっていくのが心配になる。そうすると、複合施設で、維持管理費にちょっとでも足しになるようなものがあればいいなというものもあるし、僕も図書館に行かないですけど、図書館に行きたくくなるような、カフェ的な憩いの場になるような、花井さんがおっしゃったような交流の場として子どもたちとか、教育の現場として使える施設というのは魅力的だと思うんですけど、そのモデルをいくつか絞った方がいいのかなと、どっちにするか方向性を決めないと…。

(委員長) それはね、次の有識者会議でもでてくるのではないかという気がしますけど。実際経験されている方が、それについては話されると思いますが、それについては、今ここではなかなか具体例がないので、進めることができませんでした。

(委員) 館内事業のひとつに提案があるのですけど。前もケーブルテレビを使ったら楽しいのと思う事があって。場所もいらなし、ワンコーナー、ワンチャンネルいただいて、司書さんから見た図書館という感じで、皆なかなか来ないから、図書館から発信しないと、と結構思うのですね。それが、司書さんじゃなきゃわからない事とか、白馬の今はこんな感じとかケーブルテレビを観ている人ってこんなに居るんだと思ったりしたから、足を運ばない方のために、かたくではなくていいから、ゆるい感じでも全然よくて、むしろユニークな人をそこに導入してほしいくらいなんですけど、そういう人が南小の移動図書館とからめてみたりとか、声を出してみてもいいと、じっと待っているのではなくて、図書館変わりますよとか、変わりましたよと発信しないと、こういう紙だったら、回覧とかでも絶対見ないですから、耳から目から入る情報とかも必要ではないかと思う。今まで積み上げてくることを白馬村でしてないので、発信することを何かできないかなという思うのですけど。

(委員長) 発信の仕方ですね。

(委員) それを、広報とかではなくて、事業の中に上手に入れて意識的にしたらいいのと思うのですね。そうしたら場所もいらなし、海外の方とか海外交流とか映像として動画として使えたりするので、ケーブルテレビすごくもったいないと思うのですけど。

(委員長) なんとなく、イメージわかりました。だから、テレビ図書館。こうですよ、ああですよではなくて、その中で本の楽しみ方とか紹介とかそういったものを、毎回、継続的に、今週のおすすめ図書コーナーみたいなものを。

(委員) 時間帯によっては、お子様向けに発信してあげるとか、テーマを持ってしっかり伝えるとかすると結構おもしろくなると思うのですけど。

(委員長) いわゆる情報発信というよりは、図書館の事業として。

(委員) 観光に向けてでもいいのだけれど、村の人をもっと図書館に呼び寄せるためには、図書館から離れないと絶対皆振り向いてくれないとよくわかったので、そこを、こつこつ積み上げていく必要があるなと思ったんですけど。

(委員) P, 5の(4)のところに、広報紙やケーブルテレビと入れていいのではないのでしょうか。

(委員長) そういうふうに、動くものを使うということですね。

他に何か。こんなことやってもらいたいなとか？

(委員) P, 6の交流のところで、具体的なものは、まだないと思うのですけど。例えば、松川のすずの音ホールみたいな、椅子が自動でしまわれて、体育館になるみたいな。個人的には交流スペースほしい、ウイングや北部トレセンみたいに利用できる施設があるとありがたいけど、講座室とか交流室とか書いてありますが、まだ具体的ではないのですよね？

(委員長) 交流エリアというよりは、いろんなことに使える多目的に使えるスペースという定義かな。それは、個人的には欲しいなと思いますが、どれだけそれが活用されていくかなと、死んでいく時間が長いと無駄スペースになるので、作るのであれば絶えず使える状態にしておかなくてはいけないというのが大切で。通常は何に使っているのか、例えば、そこは学習室にしておいて、言われた時は違うものに使えるとか、映画の上映会ができるとか、多目的に使える部屋があったらいいなということですよ。事業として何かするというところもあるかな。施設の貸出しということも。

(委員) 少しでも収益をとということもあります。

(委員長) 時間もそろそろなくなってきたので。  
何かあれば？ないようでしたら、これらの意見をふまえてもう一回作り直していただけたら。時間最後なので、最後に場所と規模について、規模については、この数字で出るものがひとつの目安として、図書館としてのスペースとしてが、おおよそ1200㎡ぐらいが、白馬村としては適正値であろうということ。蔵書数につきましては、内容等々含めて考えていかなければなりませんのがこの程度のものが必要でしょうということです。もっと多くてもいいかとも思うのですけど。場所について、今は、議論する時間がないのですが、せつかくでするので、いくつか案を出してあります。1200㎡ぐらいが建物としてとれるところで、現在の村の村有地でどこがあるかということ、子育て支援ルーム昔の保育園の場所、役場の隣の多目的集会施設、これも古くなってしまっていて、ただこれが、延べ床面積ですので平面積にすると半分になるということです。村有地があるわけではないが、白馬駅周辺、ウイング周辺、ウイングと一体化したらという意見もありますのでここに載せています。ハピア南側。村有地であるとすれば、子育て支援ルームの辺りがいちばん多いところではあります。総面積はわからないのですが。

(下川) 子育て支援ルームにつきましては、今建っている一辺と、上の6940-1という所が村有地です。

(委員長) このくらいのスペースがあれば図書館としては建てる場所があるのかなと。木流公園の横ということもありますし。立地条件としては、山も見えますし、イメージとしてはこのぐらいで、案としてあげさせていただきました。これについては、話す時間がないので次回にまわしたいと思います。これは、役場からではなく、こちらからで、老朽化している箇所とか等々で案として出してあります。

場所については考えておいてください。

今日は時間となりましたので、以上で議事を終了したいと思います。時間が足りなかったもので、近いうちに会を開きたいと思います。その場で、場所、規模等の話をします。

以上です。事務局から

（下川）次回の日程は、2，3週後でお願いしたいと思います。予定としては、9／25か10月最初の週のどこかで行ないたいと思っています。時間は、午前で。

#### 4. 閉会

ありがとうございました。ただいまをもちまして白馬村施設検討委員会を終わります。お疲れ様でした。